

## 第77回定期演奏会によせて

山梨大学合唱団 顧問 矢野 美紀

一年ほど前、私は一冊の本に出会った。整体師である片平悦子氏が体の3つの場所、すなわち横隔膜、肩甲骨、股関節を緩めることで圧迫された内臓を正しい位置に戻し、疲れない体を手に入れるためのストレッチ法を紹介した本である。横隔膜を緩める（まんべんなく伸縮させる）方法が生まれた背景には、人前で話す際に声を通らず悩んだ氏自身の経験があった。氏はその悩みを解決するために受けたボイストレーニングの先生から次のように言われたという。「多くの人は横隔膜の前側しか使っていない。後ろ側を使えるようになれば(肋骨の背中側も広がるので)さらに多くの息を吸うことができ、遠くまで声が響くようになる」と。人は体に備わった機能を万遍なく使うことで、歌を始めとした活動を存分に楽しむことができるだけでなく、自分の健康を維持し、そして歌は他者をも幸せにしてしまうのだ。しかし、何故だか我々は体の一部しか使わなくなっている。その理由の一つではないだろう。子供はいつでも走り回り大きな声を発している。そんな彼らに大人は静かにじっと座っていることを求める。科学はたくさんの物を生み、その性能は日々向上している。反面、人の機能は益々使われなくなっている。そんな時代の最中にあっても、全身で歌を楽しみ、さらなる楽しみのために日々自己の可能性に挑戦する若者の存在は我々の希望である。

無観客での演奏会となったことを最も残念に感じているのは他ならぬ団員達であろう。しかしそんな時だからこそ、歌をうたう自分自身を楽しみ、仲間との共鳴を存分に楽しむことに集中してくれるものと期待する。その響きは天と地が共鳴してくれるに違いない。

